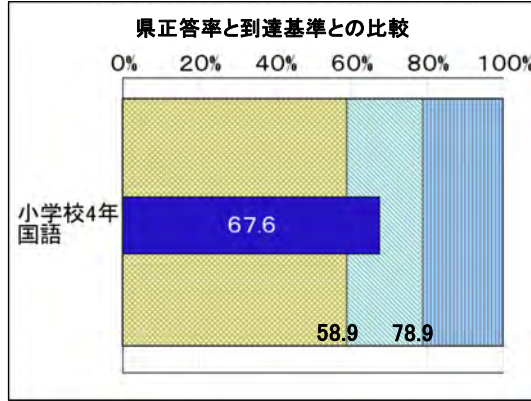


# 1 小学校国語

(1) 各学年の調査結果

① 小学4年生

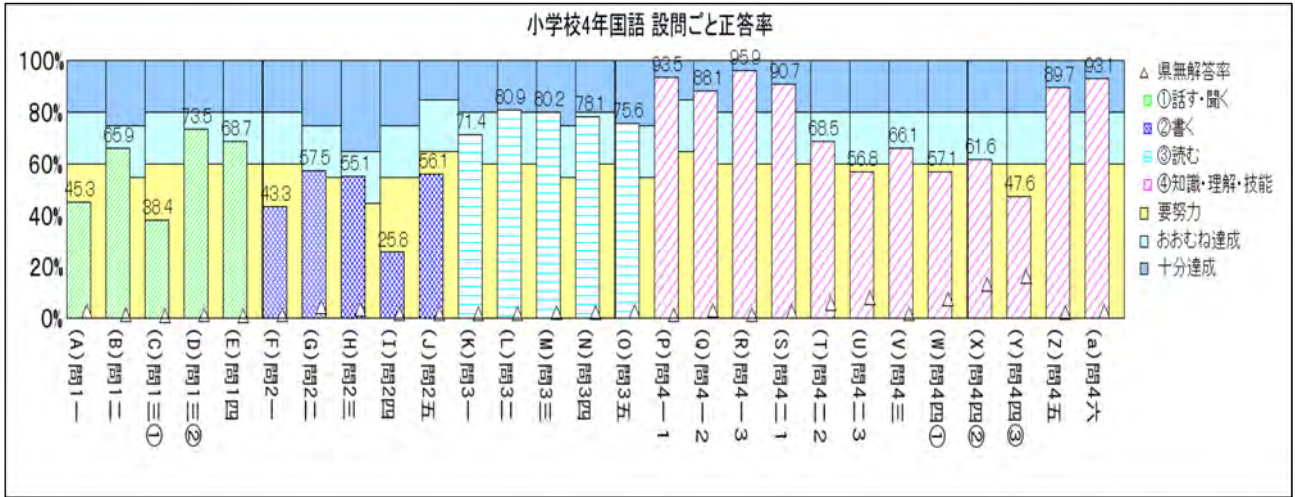
○ 教科全体正答率



○ 出題の趣旨及び設問ごと正答率(「◎」は「十分達成」、「●」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点			問題形式			活用に関する問題	十分達成	おおむね達成	正答率	無解答率	到達状況	
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝的な言語文化(漢字的な書き)	伝的な言語文化(漢字的な書き)	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・技能	選択式	短答式							記述式
1	一	適切な言葉遣いで話す	○				○					○			80	60	45.3	2.5	●
1	二	目的に応じて、事例などを挙げ工夫して話す	○				○					○			75	55	65.9	1.2	
1	三①	聞き手の反応を見ながら話す	○				○					○			80	60	38.4	0.9	●
1	三②	間を取って話す	○				○					○			80	60	73.5	1.3	
1	四	目的に応じて、筋道を立てて話す	○				○					○			80	60	68.7	0.7	
2	一	相手や目的に応じて、事柄のまとまりを意識して段落を構成する		○				○				○			80	60	43.3	1.1	●
2	二	文と文のつながりを考えて、一文を二文に書き換える		○			○	○				○			75	55	57.5	4.4	
2	三	メモを基に内容の中心を明確にして手紙を書く		○				○				○	○		65	45	55.1	3.6	
2	四	手紙の構成を理解し、後付けを書く		○				○				○			75	55	25.8	1.9	●
2	五	封筒の表書きに住所や宛名を正しい位置に書く		○				○				○			85	65	56.1	1.8	●
3	一	場面の移り変わりに注意しながら読む			○				○			○			80	60	71.4	1.7	
3	二	物語の上での登場人物の気持ちを捉える			○					○		○			80	60	80.9	1.7	◎
3	三	場面と場面とを関係付けて読む			○					○		○			75	55	80.2	2.0	◎
3	四	叙述を基に想像して読む			○					○		○			80	60	78.1	2.3	
3	五	相手や目的に応じ、本の紹介をする			○				○			○			75	55	75.6	2.5	◎
4	一1	文脈に即して、漢字を正しく読む「親友」			○					○		○			85	65	93.5	1.3	◎
4	一2	文脈に即して、漢字を正しく読む「整う」			○					○		○			80	60	88.1	3.0	◎
4	一3	文脈に即して、漢字を正しく読む「道路」			○					○		○			80	60	95.9	1.3	◎
4	二1	文脈に即して、漢字を正しく書く「走る」				○				○		○			80	60	90.7	2.5	◎
4	二2	文脈に即して、漢字を正しく書く「飲む」				○				○		○			80	60	68.5	5.5	
4	二3	文脈に即して、漢字を正しく書く「放送」				○				○		○			80	60	56.8	8.0	●
4	三	国語辞典の使い方を理解する								○	○				80	60	66.1	1.6	
4	四①	ローマ字を正しく書く「k o m e」								○		○			80	60	57.1	7.2	●
4	四②	ローマ字を正しく読む「しゃかい」								○		○			80	60	61.6	13.2	
4	四③	ローマ字を正しく読む「ばった」								○		○			80	60	47.6	16.1	●
4	五	修飾語を使って文を詳しくする								○	○				80	60	89.7	2.3	◎
4	六	へんとつくりについて理解する								○	○				80	60	93.1	2.4	◎

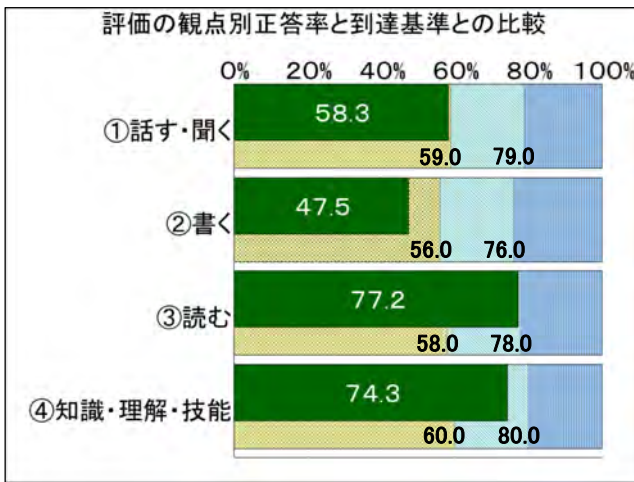
○ 設問ごと正答率



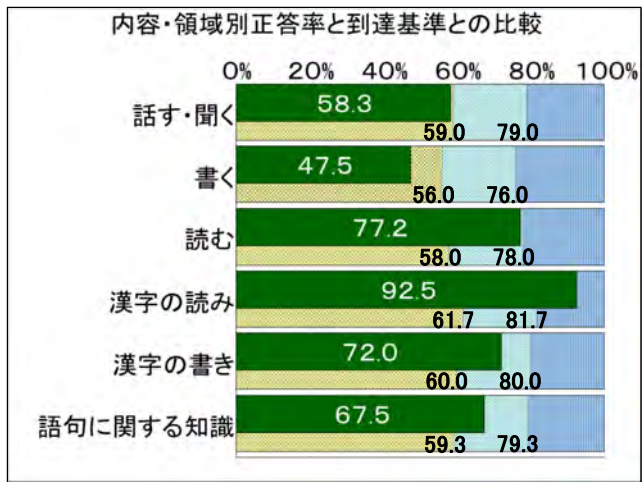
○ 教科正答数度数分布



○ 評価の観点別正答率

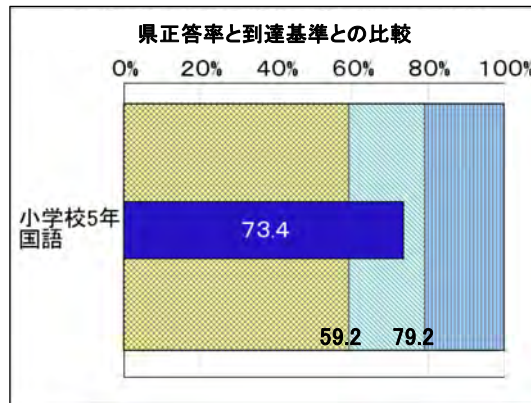


○ 内容・領域別正答率



② 小学5年生

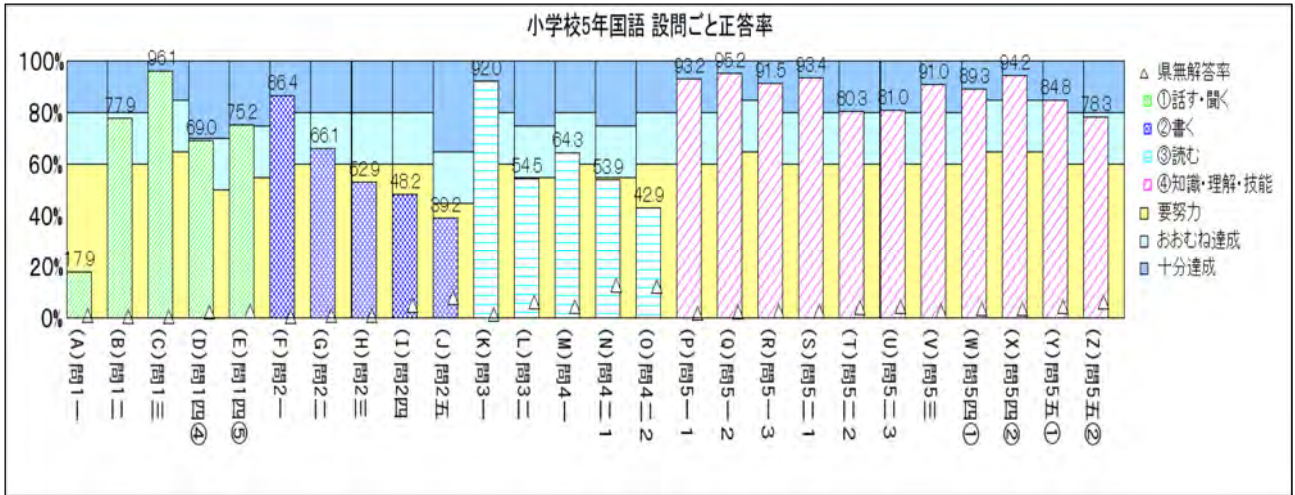
○ 教科全体正答率



○ 出題の趣旨及び設問ごと正答率等(「◎」は「十分達成」、「●」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等				評価の観点			問題形式			十分達成	おおむね達成	正答率	無解答率	到達状況	
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝達的な言語文化(漢字的読み)	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	理解・技能	選択式	短答式						記述式
1	一	司会の役割を理解する	○				○			○			80	60	17.9	0.9	●
1	二	互いの考えの共通点や相違点を考える	○				○			○			80	60	77.9	0.5	
1	三	立場を明確にして話し合う	○				○			○			85	65	96.1	0.6	◎
1	四④	発言内容を簡潔にまとめる	○				○			○	○		70	50	69.0	2.1	
1	四⑤	発言内容を簡潔にまとめる	○				○			○	○		75	55	75.2	2.4	◎
2	一	目的や意図に応じて、簡単に書く		○				○		○			80	60	86.4	0.4	◎
2	二	自分の考えを明確に書くために、構成を考える		○				○		○			80	60	66.1	0.8	
2	三	目的や意図に応じて、工夫して書く		○				○		○			80	60	52.9	0.8	●
2	四	目的に応じて、適切な表現に書き直す		○				○		○			80	60	48.2	4.8	●
2	五	目的や意図に応じて、条件に合わせて書く		○				○		○	○		65	45	39.2	8.0	●
3	一	場面と場面を関係付けて読む		○					○	○			80	60	92.0	1.2	◎
3	二	場面についての描写を捉える		○					○	○			75	55	54.5	6.1	●
4	一	文章全体の構成を捉える		○					○	○			80	60	64.3	4.5	
4	二1	文章の内容を的確に捉える		○					○	○			75	55	53.9	12.6	●
4	二2	文章の内容を的確に捉える		○			○		○	○			80	60	42.9	12.2	●
5	一1	文脈に即して、漢字を正しく読む「配る」			○				○	○			80	60	93.2	1.9	◎
5	一2	文脈に即して、漢字を正しく読む「停車」			○				○	○			85	65	95.2	2.1	◎
5	一3	文脈に即して、漢字を正しく読む「冷ます」			○				○	○			80	60	91.5	2.4	◎
5	二1	文脈に即して、漢字を正しく書く「世界」				○			○	○			80	60	93.4	2.6	◎
5	二2	文脈に即して、漢字を正しく書く「熱い」				○			○	○			80	60	80.3	4.1	◎
5	二3	文脈に即して、漢字を正しく書く「便利」				○			○	○			80	60	81.0	4.5	◎
5	三	漢字辞典の使い方を理解する					○		○	○			80	60	91.0	2.6	◎
5	四①	同音・同訓の漢字を正しく使う「屋」					○		○	○			85	65	89.3	3.3	◎
5	四②	同音・同訓の漢字を正しく使う「夜」					○		○	○			85	65	94.2	3.3	◎
5	五①	接続語を使って二文を一文にする					○		○	○			80	60	84.8	4.5	◎
5	五②	接続語を使って一文を二文にする					○		○	○			80	60	78.3	5.9	

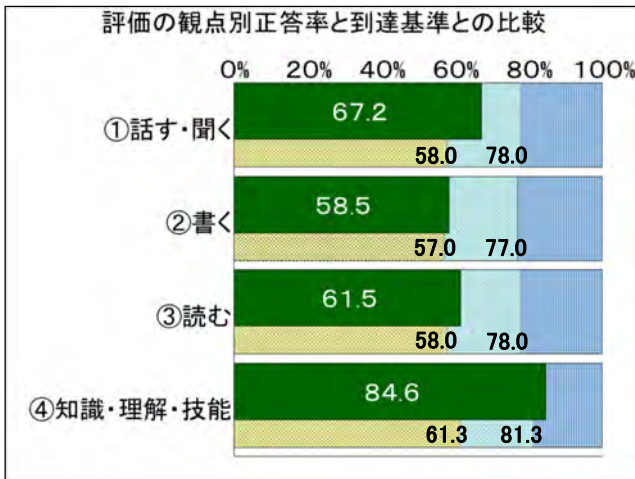
○ 設問ごと正答率



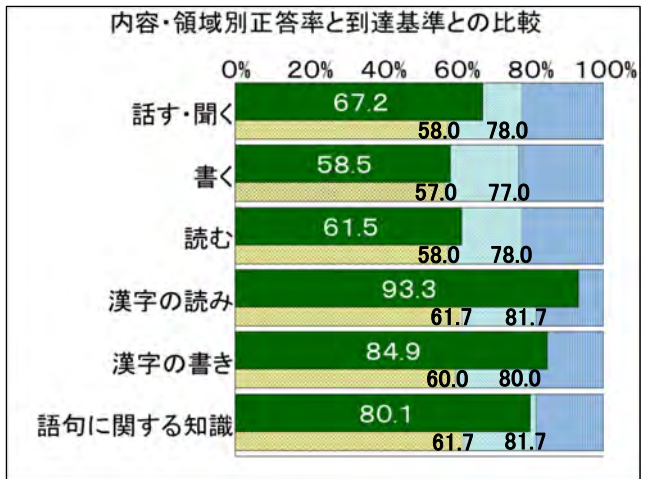
○ 教科正答数度数分布



○ 評価の観点別正答率

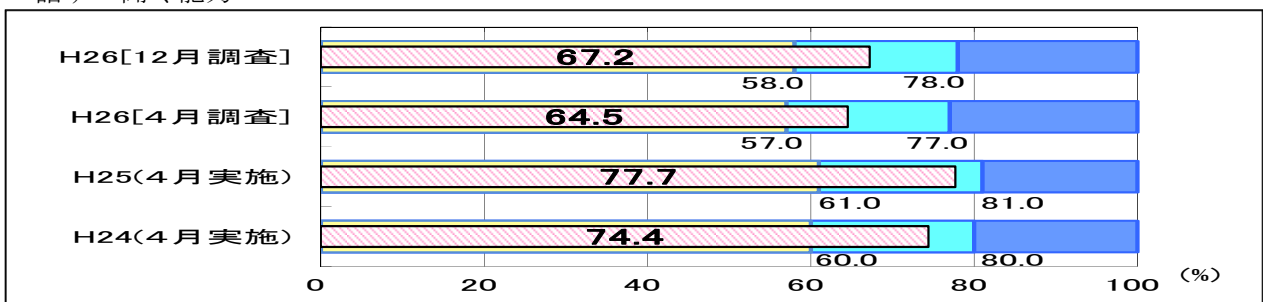


○ 内容・領域別正答率

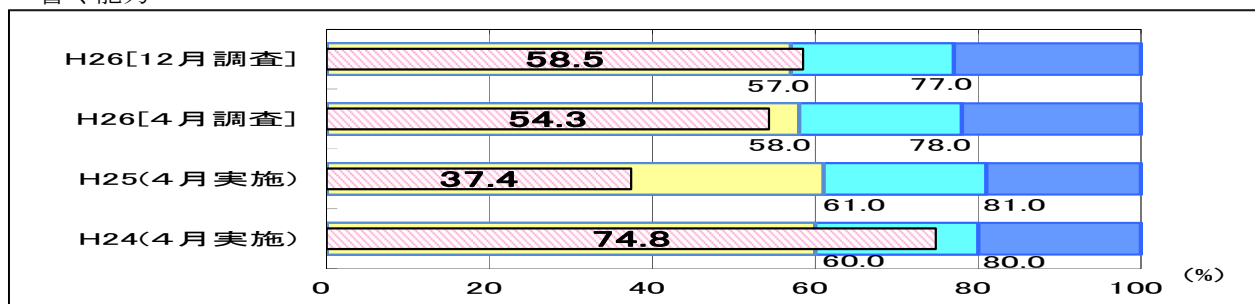


○ 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

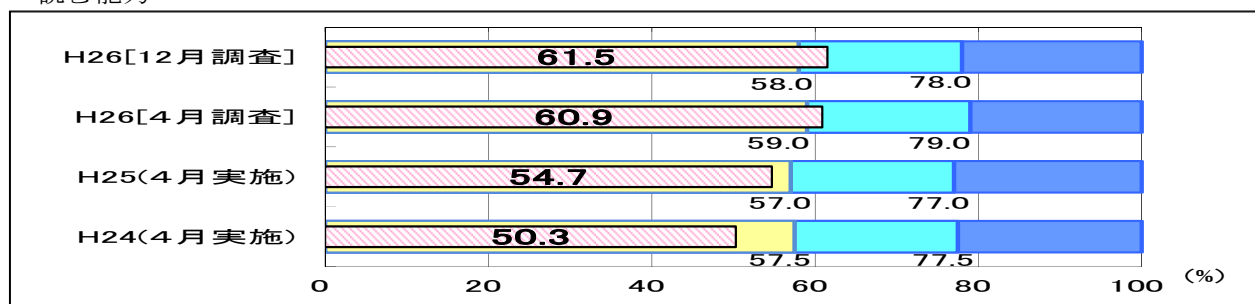
話す・聞く能力



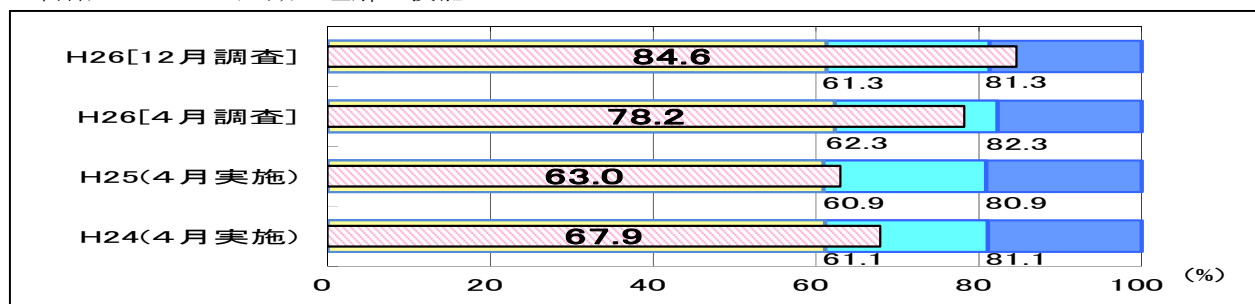
書く能力



読む能力

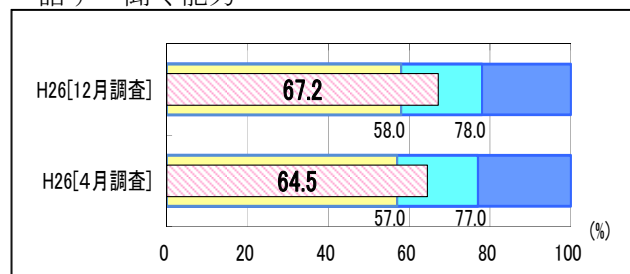


言語についての知識・理解・技能

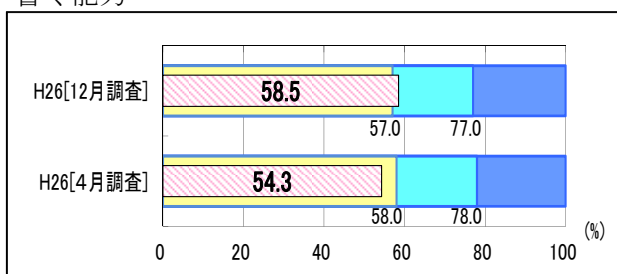


○ 評価の観点別正答率の推移(同一児童)

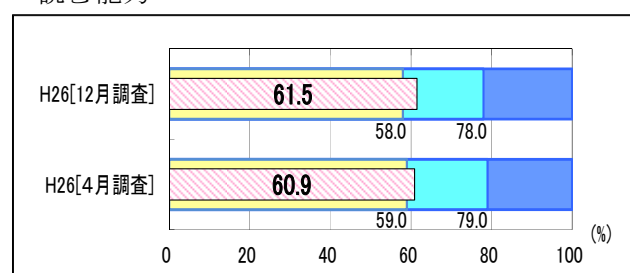
話す・聞く能力



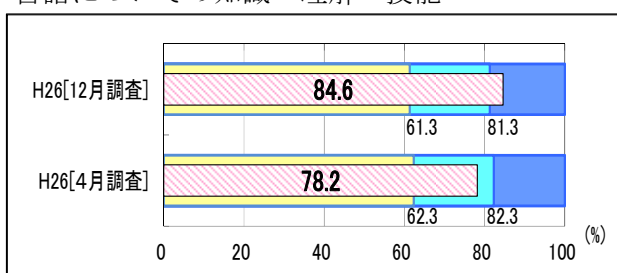
書く能力



読む能力

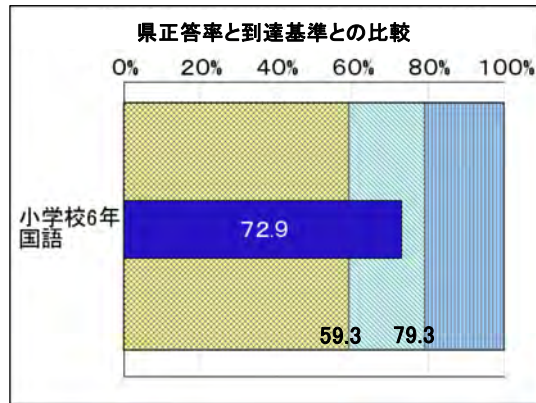


言語についての知識・理解・技能



③ 小学6年生

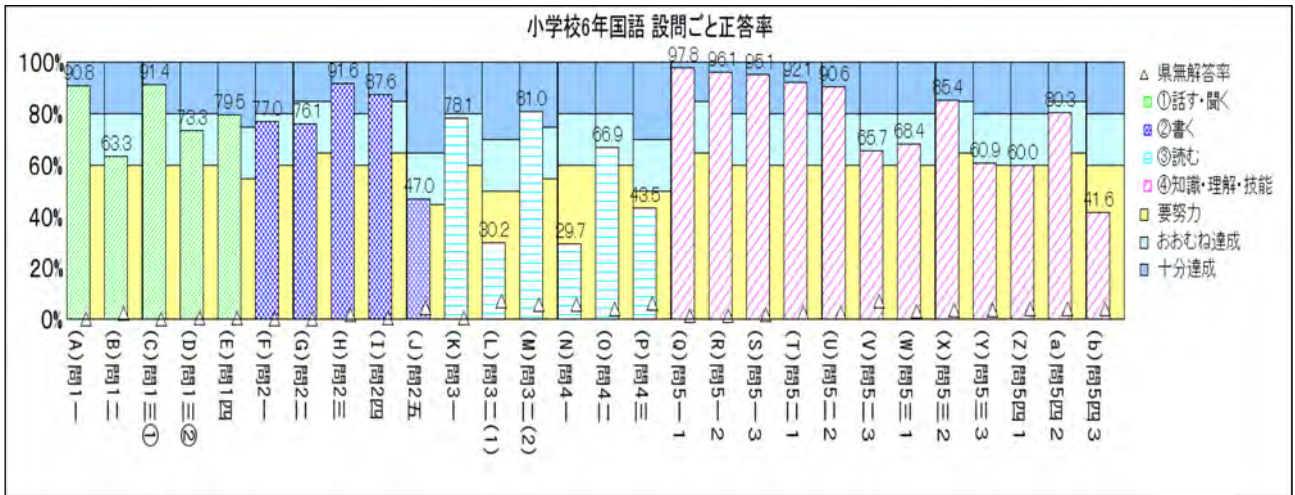
○ 教科全体正答率



○ 出題の趣旨及び設問ごと正答率等(「◎」は「十分達成」、「●」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等					評価の観点			問題形式			十分達成	おおむね達成	正答率	無解答率	到達状況	
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	漢字的な読み書き文化	伝統的な言語文化	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語に関する知識・技能	選択式	短答式						記述式
1	一	目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の内容を工夫する	○				○			○				80	60	90.8	0.1	◎
1	二	メモを自分の考えに生かす	○				○				○			80	60	63.3	2.1	
1	三①	立場や意図を明確にしながら計画的に話し合う	○				○			○				80	60	91.4	0.1	◎
1	三②	立場や意図を明確にしながら計画的に話し合う	○				○			○				80	60	73.3	0.4	
1	四	話し手の意図を捉え、自分の意見と比べ考えをまとめる	○				○			○			○	75	55	79.5	0.3	◎
2	一	目的や意図に応じて、記述の仕方を工夫する		○					○	○				80	60	77.0	0.2	
2	二	事実を整理して、適切な見出しを書く		○					○	○				85	65	76.1	0.2	
2	三	文章の間違いを正す			○				○		○			80	60	91.6	1.8	◎
2	四	自分の考えが伝わるように、図表やグラフを用いる		○					○	○				85	65	87.6	0.4	◎
2	五	目的や意図に応じて、条件に合わせて書く		○					○		○	○		65	45	47.0	4.4	
3	一	場面についての描写を捉える			○					○				80	60	78.1	0.5	
3	二(1)	人物の相互関係や場面についての描写を捉える			○					○				70	50	30.2	6.8	●
3	二(2)	伝記に描かれた人物の思いや願いを捉える			○					○				75	55	81.0	5.7	◎
4	一	文章の内容を的確に捉える			○					○				80	60	29.7	5.6	●
4	二	構成の仕方や巧みな叙述などを捉える			○					○				80	60	66.9	3.8	
4	三	文章の内容を的確に押さえて要旨を捉える			○					○		○	○	70	50	43.5	6.2	●
5	一1	文脈に即して、漢字を正しく読む「浴びる」			○					○				85	65	97.8	1.2	◎
5	一2	文脈に即して、漢字を正しく読む「逆らう」			○					○				80	60	96.1	1.4	◎
5	一3	文脈に即して、漢字を正しく読む「規則」			○					○				80	60	95.1	1.9	◎
5	二1	文脈に即して、漢字を正しく書く「働く」				○				○				80	60	92.1	2.5	◎
5	二2	文脈に即して、漢字を正しく書く「血液」				○				○				80	60	90.6	2.4	◎
5	二3	文脈に即して、漢字を正しく書く「永久」				○				○				80	60	65.7	7.1	
5	三1	熟語の構成について理解する							○	○	○			80	60	68.4	3.2	
5	三2	熟語の構成について理解する							○	○	○			85	65	85.4	3.3	◎
5	三3	熟語の構成について理解する							○	○	○			80	60	60.9	3.6	◎
5	四1	漢字の由来について理解する							○	○	○			80	60	60.0	4.1	
5	四2	漢字の由来について理解する							○	○	○			85	65	80.3	4.0	
5	四3	漢字の由来について理解する							○	○	○			80	60	41.6	4.1	●

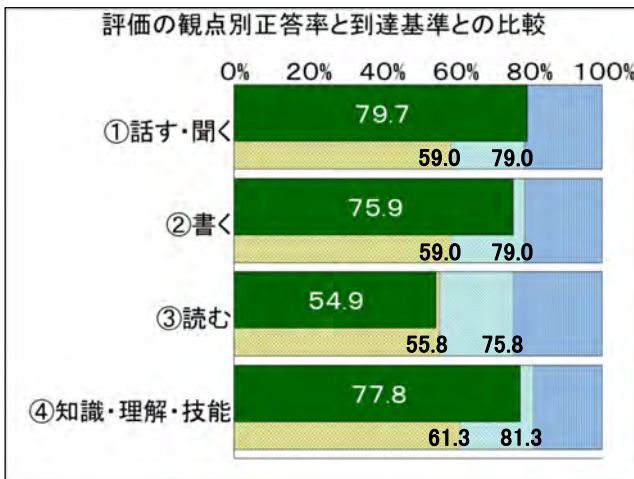
○ 設問ごと正答率



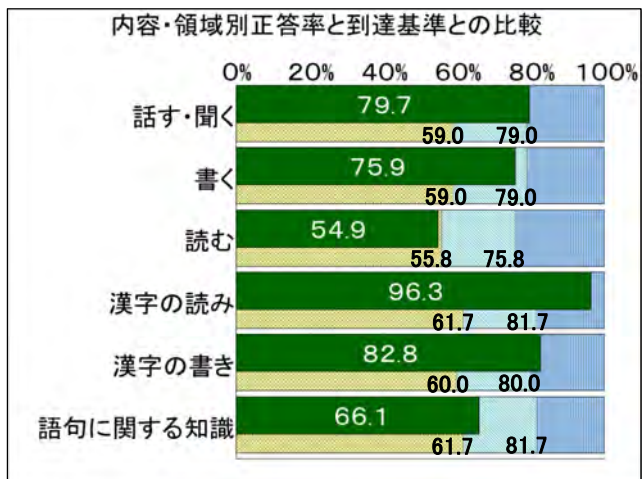
○ 教科正答数度数分布



○ 評価の観点別正答率

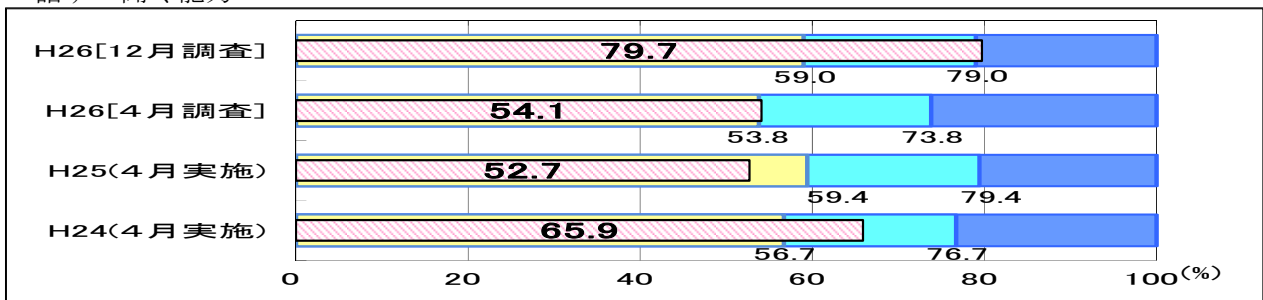


○ 内容・領域別正答率

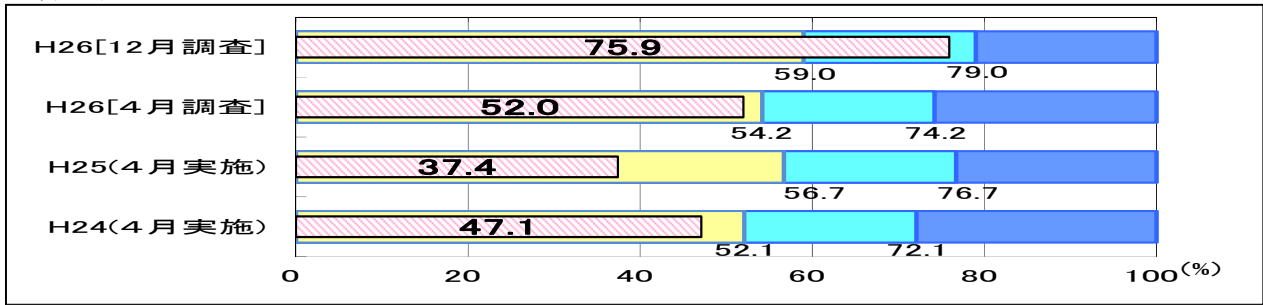


○ 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

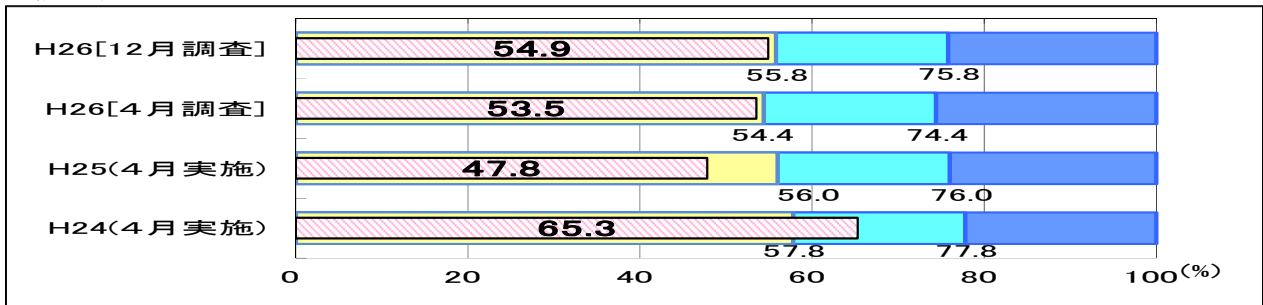
話す・聞く能力



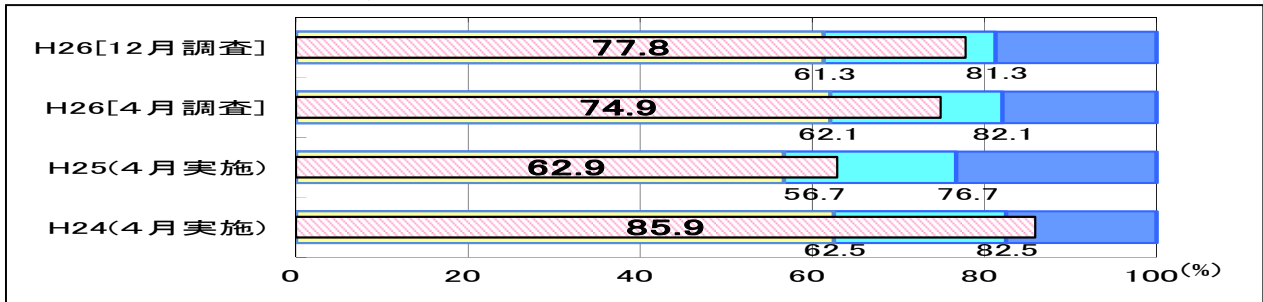
書く能力



読む能力

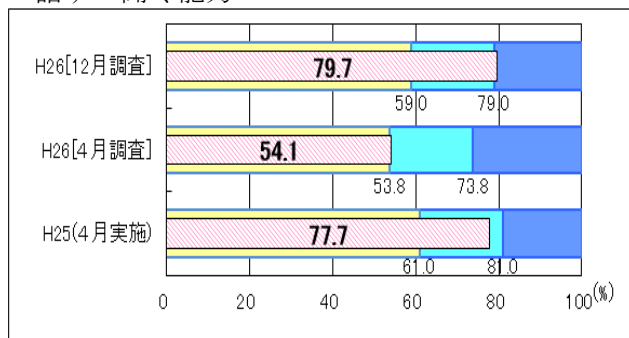


言語についての知識・理解・技能

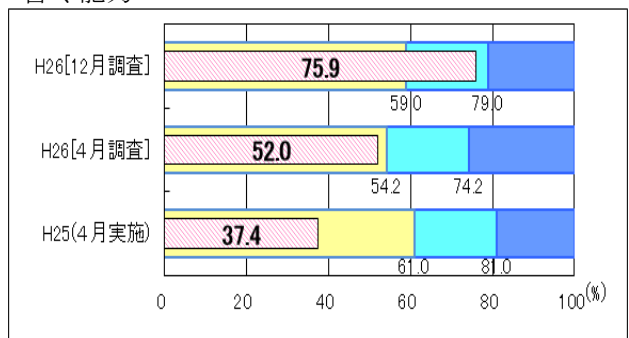


○ 評価の観点別正答率(同一児童)

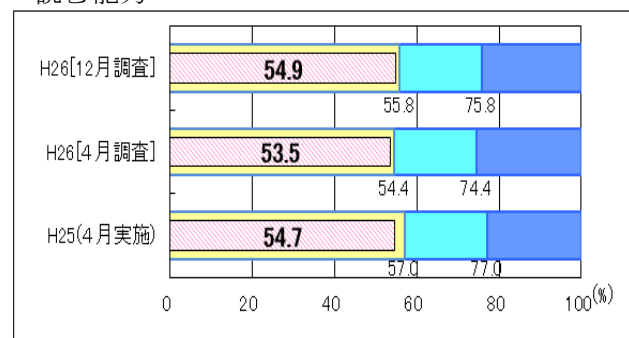
話す・聞く能力



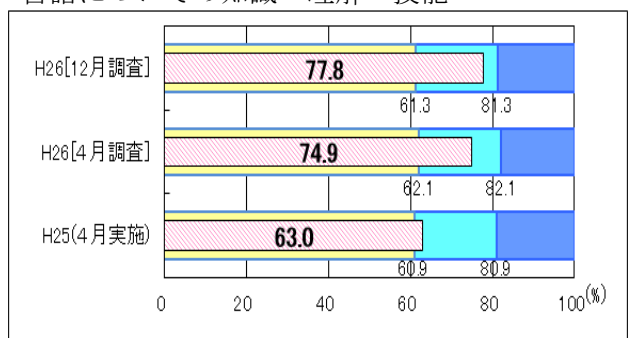
書く能力



読む能力



言語についての知識・理解・技能





(2) 調査結果の分析(成果と課題)

① 小学校全体

- 教科全体正答率を見ると、全ての学年において、「おおむね達成」の到達基準を上回った。
- 評価の観点別正答率を見ると、「言語についての知識・理解・技能」については、全ての学年で「おおむね達成」の到達基準を上回った。特に、小学5年生においては、「十分達成」の到達基準を上回っており、学習内容が十分に習得されていた。
- 内容・領域別正答率を見ると、[4月調査]に引き続き「漢字の読み」において「十分達成」の到達基準を上回っており、学習内容が十分に習得されていた。
- [4月調査]小学5年生において課題として挙げられていた「複数の条件に合わせて書く」ことについては、「おおむね達成」の期待正答率を下回っている設問があり、引き続き課題が見られた。

② 小学4年生

- 文学的な文章については、「登場人物の心情を捉える」ことや「場面と場面とを関係付けて読む」ことを問う設問において、「十分達成」の期待正答率を上回っていた。
- 内容・領域「話すこと・聞くこと」については、「適切な言葉遣いで話す」ことを問う設問において、「おおむね達成」の期待正答率を下回っていた。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問1一	適切な言葉遣いで話す (短答式)	伝聞の表現に書き直す。	45.3	2.5	80.0	60.0

・ 解答状況

問1一は、スピーチの原稿にある「大泣きしました。」を伝聞の表現に書き直す設問であった。「大泣きしました。」の文の前後に「～そうです。」と伝聞の表現が使われている文があるが、聞いたことを適切に表現する力が付いていないのではないかと推察される。

・ 改善・充実に向けて

相手や目的に応じて、適切な表現で話すことを日頃から意識させることが大切である。具体的には、次のような指導が効果的である。

㊦ 相手や目的に応じて適切な表現を使い分けることを、発表の原稿を準備する段階でも意識させるために、「話すこと・聞くこと」と「書くこと」において、相手や目的に応じ理由や事例を挙げて話したり、書いたりさせる等の関連した指導をする。

㊧ 友達のスピーチを聞く際に、聞く観点(話の順序、組み立て、要点、表現、話し方等)を明確にさせる。児童相互で聞き合った後に、感想や意見を述べたり、質問をしたりして、最終的にはよりよいスピーチとなるように、互いに助言をさせ合うようにする。

- 内容・領域「書くこと」については、「手紙を書く」ために必要な構成、後付けや表書きの理解を問う設問において「おおむね達成」の期待正答率を下回っており、「手紙を書く」ことには課題が見られた。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問2一	相手や目的に応じて、事柄のまとまりを意識して段落を構成する (選択式)	お礼の手紙を書くときの手紙の構成を選択する。	43.3	1.1	80.0	60.0

- ・ 解答状況  
問2一は、手紙の構成を問う設問であった。問われている内容とお礼の手紙とを対応させて考えることができなかつたのではないかと、また、選択肢エの「相手の体を気づかう言葉」が手紙の中のどの言葉になるのかが分からなかつたのではないかと推察される。
- ・ 改善・充実に向けて  
他教科・領域等の学習とも関連させ、意図的に、目的に合わせて手紙を書く場面を設定する必要がある。  
㊦ 依頼状、案内状や礼状など、目的に合わせて実用的な文章としての手紙を書く活動を取り入れる。  
㊧ モデルとなる書き方(文章、後付け、表書きなど)を提示し、まねて書いたり、書き換えたりする学習を授業に取り入れる。

④ 小学5年生

- 全ての評価の観点において、「おおむね達成」の到達基準を上回った。特に、「言語についての知識・理解・技能」においては、「十分達成」の到達基準を上回っており、学習内容が十分に習得されていた。
- 「目的や意図に応じて、条件に合わせて書く」ことや「目的に応じて適切な表現に書き直したり、工夫して書いたりする」ことについて問う設問においては、「おおむね達成」の期待正答率を下回っており、[4月調査]から引き続き課題が見られた。

- ・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問2五	目的や意図に応じて、条件に合わせて書く (記述式)	取材メモを基に、新聞の記事を書く。	39.2	8.0	65.0	45.0

- ・ 解答状況  
問2五は、取材メモを基に条件に合わせて新聞記事を書く設問であった。設問の中で新聞記事を書くときの条件は、①3文に分けること、②文末表現を常体にするものの2点であるが、3つの文の内容にも条件があり、詳しく見ると4つの条件に合わせて書かなければならない。取材メモには、箇条書きで簡単に示されている。それらの内容をまとめたり、引用したりしながら、記事の文章にすることは、難しかったのではないかと推察される。また、条件の1つである「まとめる」「引用する」ことの意味の理解が不十分であったのではないかと推察される。
- ・ 改善・充実に向けて  
新聞は、目的に応じて記事を選んで読んだり、分析的に読んだり、比べて読んだりすることが大切である。そのことにより、自分の考えを広げたり、深めたりする態度を育てることが重要である。具体的には、次のような指導が効果的である。  
㊦ 主語と述語との関係や修飾と被修飾との関係を捉えながら、メモの内容を文章にさせることや、引用の意味と書き方をモデル文で示しながら指導していく。  
㊧ 新聞を読む能力と書く能力を連動させながら系統的に指導していく。
- 内容・領域「読むこと」においては、「文章の内容を的確に捉える」ことについて問う設問においては、「おおむね達成」の期待正答率を下回っていた。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問4 二2	文章の内容を的確に捉える (短答式)	説明的な文章の中から適切な接続語を選び、それを用いてカードにまとめる。	42.9	12.2	80.0	60.0

・ 解答状況

説明的な文章をカードにまとめる際、文章の内容を表現に即して的確に捉えることが大切となる。問4二2は、本文中の接続語の中から適切な接続語を選ばなければならないが、接続語の役割の理解が十分ではなかったのではないかと推察される。

・ 改善・充実に向けて

内容・領域における「読むこと」の説明的な文章の解釈に関する指導は、「書くこと」の「事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること」と関連付けるとよい。具体的には次のような指導が効果的である。

- ㊦ 中心となる語や文に注目して要点をまとめたり、小見出しを付けたりして、内容を整理させる。
- ㊧ [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] の「指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと」と関連付け、指示語や接続語、文末表現に注意して読ませる。

⑤ 小学6年生

- 評価の観点「話す・聞く能力」の内容においては、「十分達成」の到達基準を上回っており、学習内容が十分に習得されていた。
- 内容・領域「読むこと」については、「文章の内容を的確に捉える」ことを問う設問において、「おおむね達成」の期待正答率を下回っていた。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問4一	文章の内容を的確に捉える (短答式)	説明的な文章の中の序論の内容を捉え、キーワードを見つける。	29.7	5.6	80.0	60.0

・ 解答状況

問4は、説明的な文章の設問である。序論では問題提起をし、本論で4つのロボットの例を挙げている。結論で、筆者のロボットに対する考えを述べている。小問一は、「目的」と「役割」という2つのキーワードを捉える設問である。そのためには、本文中「このように・・・」と4つの例をまとめた段落の内容を捉えることが必要となるが、その段落の内容や文章全体の構成の理解が十分ではなかったのではないかと推察される。

・ 改善・充実に向けて

文章の内容を的確に押さえるためには、文章に書かれている話題、理由や根拠となっている内容、構成の仕方や巧みな叙述などについて注意することが大切である。そのためには、具体的に次のような指導が効果的である。

- ㊦ 事実と感想、意見などとの関係を捉え文章全体の構成を把握させる。
- ㊧ [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] の「指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと」と関連付け、指示語や接続語に注意して読ませる。指示語や接続語は、文や文章の構成に関わり、文章の論理的な関係を構築する上で、大切な役割を果たしている。読みの指導においては、文相互の関係とともに、段落相互の関係を端的に示す手掛かりとなるものとして、指導する。

- 内容・領域「読むこと」については、「文章の内容を的確に押さえて要旨を捉える」ことを問う設問において、「おおむね達成」の期待正答率を下回っていた。

- ・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問4三	文章の内容を的確に押さえて要旨を捉える。 (記述式)	筆者の考え(要旨)を、条件に合わせて書く。	43.5	6.2	70.0	50.0

- ・ 解答状況

問4三の筆者の考え(要旨)を書くときの条件は、①筆者の考えに合わせる、②「ロボットに任せる」という言葉を使うことの2点である。問い掛けに対する筆者の考え(要旨)が書かれた段落は捉えられても、筆者の考え(要旨)を、条件に合わせて書くことが難しかったのではないかと推察される。

- ・ 改善・充実に向けて

説明的文章における筆者の考え(要旨)を書かせる際に、条件を付けて書かせたり、キーワードを用いてまとめさせたりする学習活動を繰り返し行っていくことが大切である。

### (3) 改善のポイント

#### ① 表現の仕方に注目して、読みを深めさせる指導を工夫する

- ・ 説明的な文章において、書き手は自分の主張を効果的に伝えるために、書き出しや文末表現、内容構成などを工夫している。このような表現の工夫を捉えながら、文章の要旨や内容を的確に捉えさせていくことが大切である。
- ・ 文学的な文章において、登場人物の心情は直接的に描写されている場合もあるが、行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されているものもある。このような表現の工夫にも注意し、想像を豊かにしながら読ませることが大切である。

#### ② 領域を相互に関連付けた指導を工夫する

- ・ 領域を関連付けて指導することで、より高い指導の効果を得られる場合がある。それぞれの指導のねらいに応じて、複合的な単元計画を工夫することが必要である。
- ・ 「話すこと・聞くこと」と「書くこと」を関連付けた指導においては、例えばスピーチのメモや取材のメモなど目的に応じたメモの書き方を具体的に学習する時間を単元の中に位置付ける。
- ・ 「読むこと」と「書くこと」を関連付けた指導においては、目的に応じて読んだことをまとめさせる活動を取り入れる。また、書いたことを交流させ、読みを深めさせることも大切である。

#### ③ 条件に合わせて考えをまとめさせる活動を工夫する

- ・ 単元の指導事項に応じ、適切な条件(字数・キーワード・引用など)に合わせて書く活動を繰り返し取り入れる。
- ・ モデル文を示し、モデル文のよい点や不完全な点を考えさせる。それを基に、書くときの視点に気付かせる。また、児童の実態に合わせ、モデルを参考にして書かせる学習を取り入れる。

#### ◎ ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターでは、授業に役立つ実践研究として、国語科の「学習プリント」や「授業指導案」を提供しています。国語の授業や国語に関するスキルタイム、家庭学習などで使用することを目的としたプリントです。基礎・基本的な力を身に付けるプリントや、身に付けた知識・技能を学校生活や日常生活場面で活用する力を付けるためのプリントがあります。

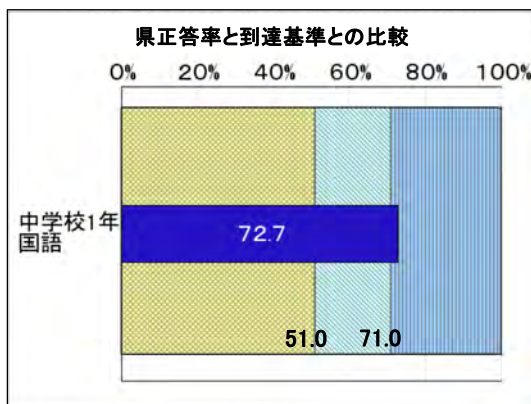
ぜひ、ご活用ください。

## 2 中学校国語

(1) 各学年の調査結果

① 中学1年生

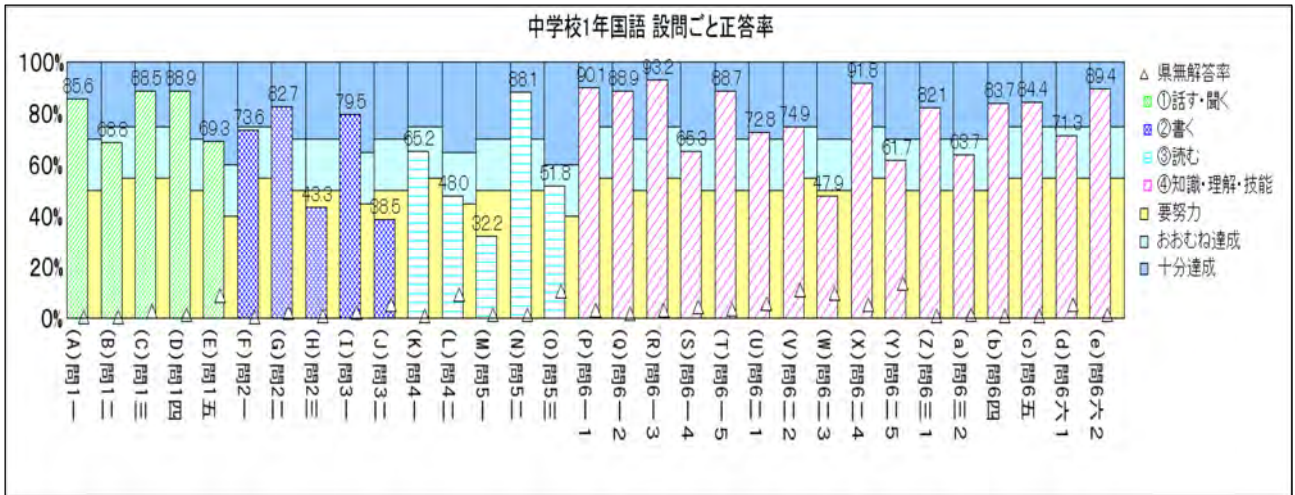
○ 教科全体正答率



○ 出題の趣旨及び設問ごと正答率(「◎」は「十分達成」、「●」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等					評価の観点			問題形式			十分達成	おおむね達成	正答率	無解答率	到達状況	
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化(漢字的な書き文化)	伝統的な言語文化(漢字的な書き文化)	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・技能	選択式	短答式						記述式
1	一	相手の話をしっかりと聞き、メモを取る	○				○				○			70	50	85.6	0.4	◎
1	二	相手の話をしっかりと聞き、必要に応じて質問する	○				○				○			75	55	68.8	0.4	
1	三	相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話す	○				○					○		75	55	88.5	2.8	◎
1	四	全体と部分との関係に注意して話を構成して話す	○				○				○			70	50	88.9	1.4	◎
1	五	伝えたいことを明確にし、組立てを工夫して話す	○				○					○		60	40	69.3	8.7	◎
2	一	伝えたい事実を目的に応じて書く		○				○			○			75	55	73.6	0.6	
2	二	材料を基に、相手意識を明確にして書く		○				○			○			70	50	82.7	2.3	◎
2	三	材料を整理するとともに、項目の役割を構成する		○				○			○			70	50	43.3	0.8	●
3	一	伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く		○				○				○	○	65	45	79.5	2.2	◎
3	二	図と文章を照らし合わせて、分かりやすい文章に書き換える		○				○				○		70	50	38.5	5.3	●
4	一	文脈の中における語句の意味を的確に捉え、理解する			○				○		○			75	55	65.2	1.0	
4	二	文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分け、目的に応じて要旨を捉える			○				○			○		65	45	48.0	9.1	
5	一	比喻などの表現技法を理解している			○				○		○			70	50	32.2	1.4	●
5	二	場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解する			○				○		○			70	50	88.1	1.2	◎
5	三	文章に表れている考え方を捉え、自分の考えをもつ			○				○			○	○	60	40	51.8	10.6	
6	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語・日常生活)「日射」			○					○		○		75	55	90.1	3.0	◎
6	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字・同訓異字)「収まる」			○					○		○		70	50	88.9	1.7	◎
6	一3	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「度胸」			○					○		○		75	55	93.2	3.1	◎
6	一4	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語・同じ意味を持つ語)「絵画」			○					○		○		70	50	65.3	4.5	
6	一5	文脈に即して漢字を正しく読む(熟字訓)「今朝」			○					○		○		70	50	88.7	3.4	◎
6	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語・日常生活)「服装」				○				○		○		70	50	72.8	5.8	◎
6	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「困る」				○				○		○		75	55	74.9	11.0	
6	二3	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「専門」				○				○		○		70	50	47.9	9.7	●
6	二4	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「忘れる」				○				○		○		75	55	91.8	5.2	◎
6	二5	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「看病」				○				○		○		70	50	61.7	13.6	
6	三1	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(言葉の単位)					○			○	○			70	50	82.1	1.0	◎
6	三2	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(文節の働き)					○			○	○			70	50	63.7	1.5	
6	四	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(同訓異字)					○			○	○			75	55	83.7	1.0	◎
6	五	総画数について理解している					○			○		○		75	55	84.4	1.0	◎
6	六1	歴史的仮名遣いについて理解している					○			○		○		75	55	71.3	5.1	
6	六2	故事成語について理解している					○			○	○			75	55	89.4	1.5	◎

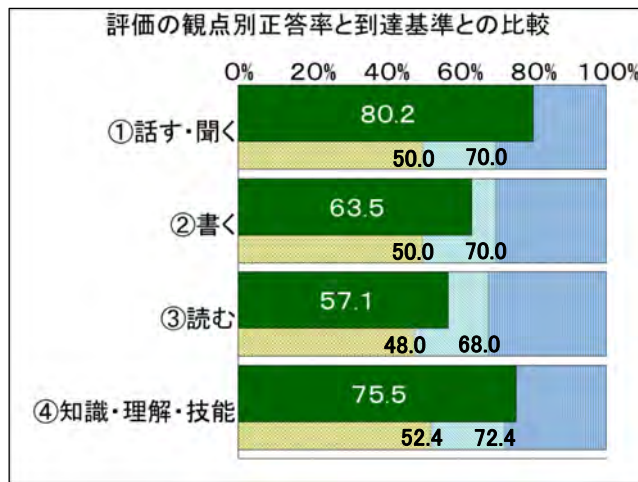
○ 設問ごと正答率



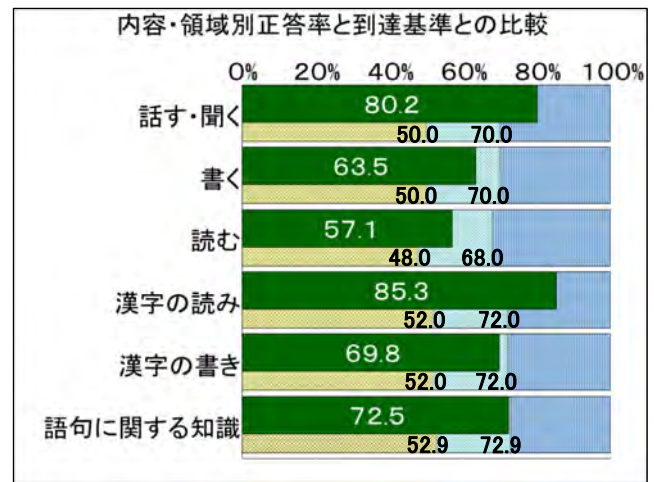
○ 教科正答数度数分布



○ 評価の観点別正答率



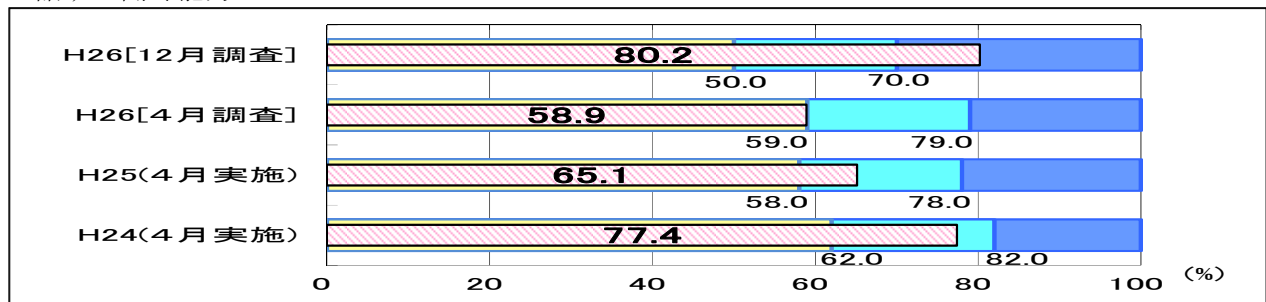
○ 内容・領域別正答率



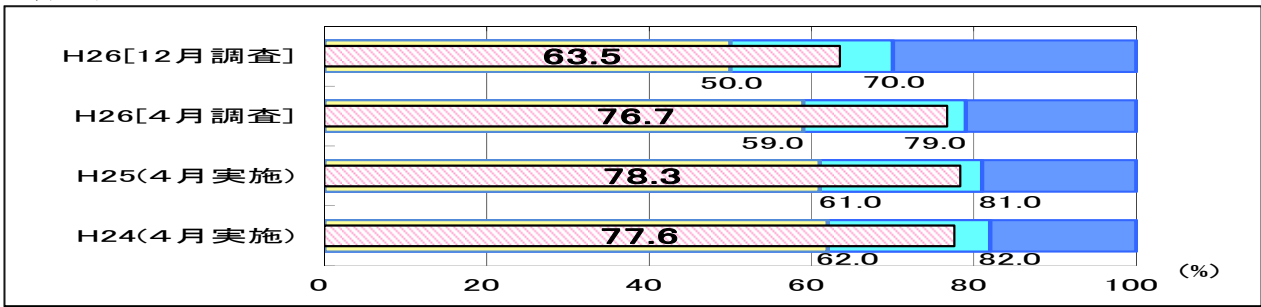
○ 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

※ 平成26年度[4月調査]までは、小学6年生までの内容で調査。

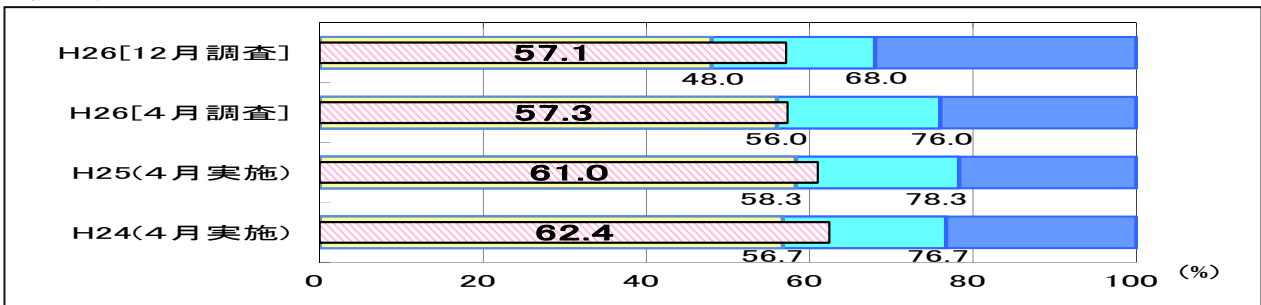
話す・聞く能力



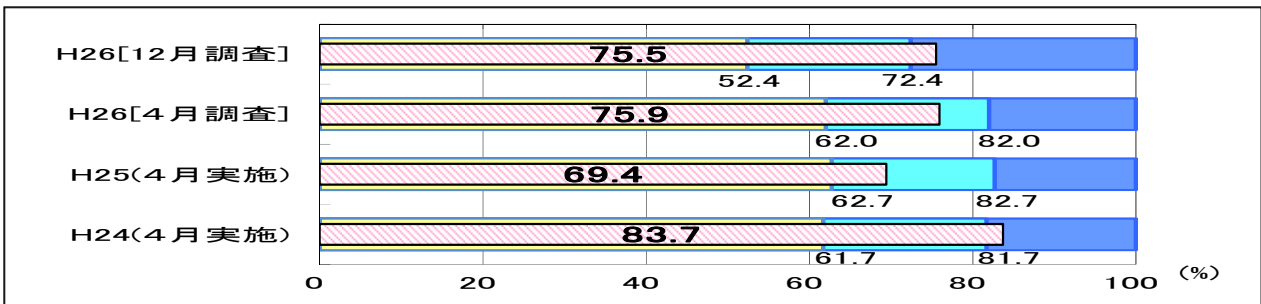
書く能力



読む能力



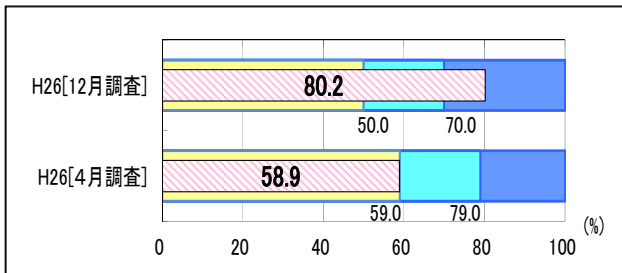
言語についての知識・理解・技能



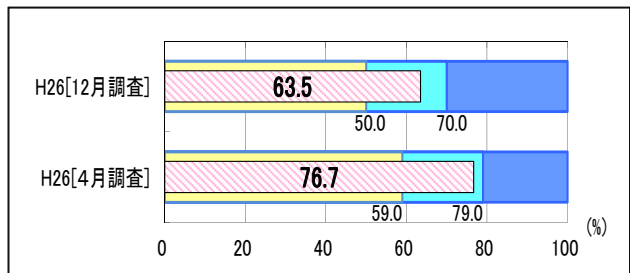
○ 評価の観点別正答率の推移(同一生徒)

※ 平成26年度[4月調査]は、小学6年生までの内容で調査。

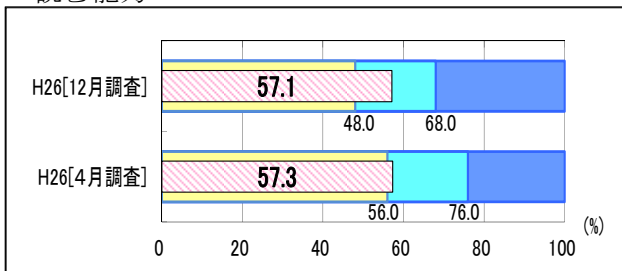
話す・聞く能力



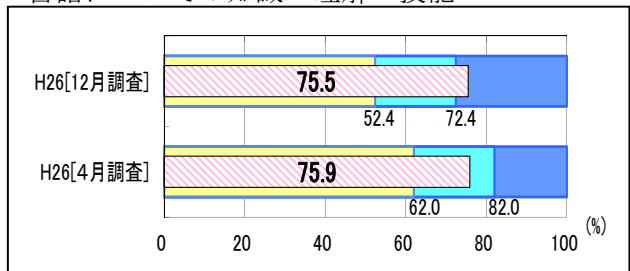
書く能力



読む能力

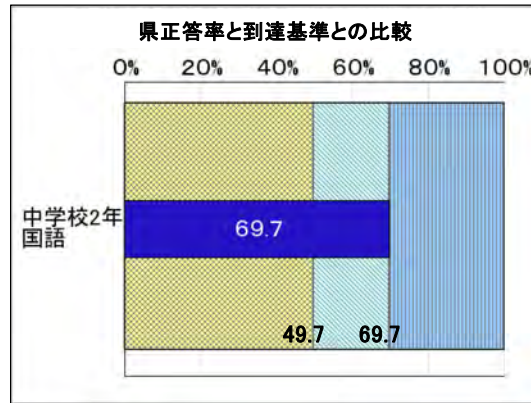


言語についての知識・理解・技能



② 中学2年生

○ 教科全体正答率

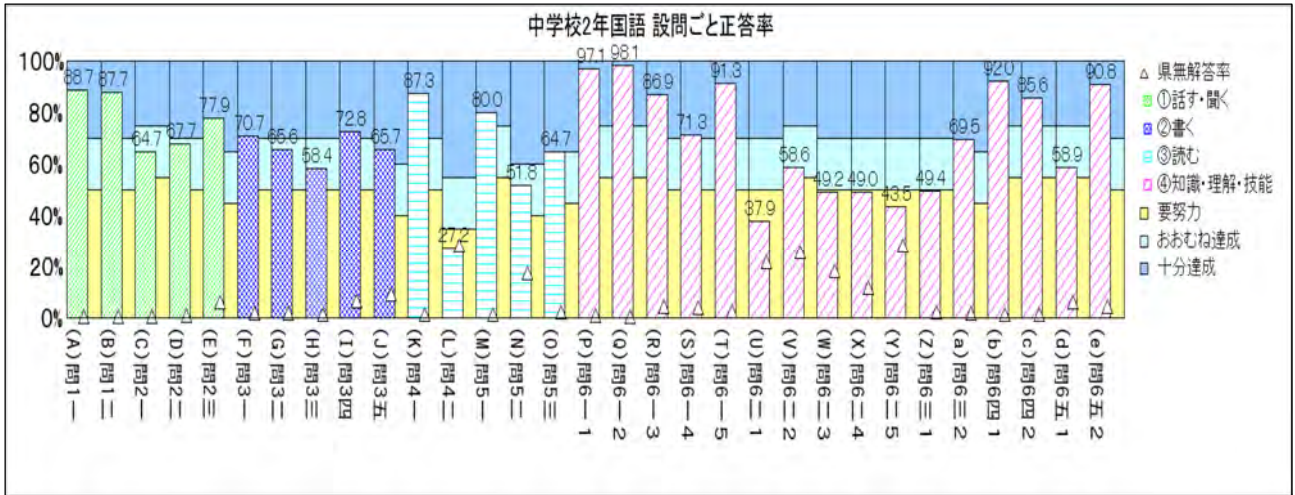


○ 出題の趣旨及び設問ごと正答率等

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等				評価の観点				問題形式			「活用」に関する問題		十分達成	おおむね達成	正答率	無解答率	到達状況
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝言・漢字の読み書き(漢字的な読み書き文化)	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	理解・技能	選択式	短答式	記述式	活用						
1	一	話の論理的な構成や展開などに注意して聞く	○								○				70	50	88.7	0.4	◎
1	二	相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げる	○								○				70	50	87.7	0.5	◎
2	一	資料と言葉を効果的に組み合わせ説明する	○								○				75	55	64.7	0.5	
2	二	聞き手を意識して、論理的な構成や展開を考えて話す	○								○				70	50	67.7	0.7	
2	三	話の中心的な部分と付加的な部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて自分の考えを話す	○									○	○		65	45	77.9	6.2	◎
3	一	書くために必要な材料を集めながら自分の考えをまとめる		○							○				70	50	70.7	1.8	◎
3	二	自分の伝えたい内容を明確にして、文章の構成を工夫する		○							○				70	50	65.6	1.6	
3	三	意見が効果的に相手に伝わるように、描写を工夫して書く		○							○				70	50	58.4	1.5	
3	四	書いた文章を読み返し、語句の用法を確かめて、読みやすく分かりやすい文章にする		○								○			70	50	72.8	6.7	◎
3	五	伝えたい事実や事柄について、自分の考えを明確にして書く		○								○			60	40	65.7	9.3	◎
4	一	文章全体と部分との関係を考えて、内容を理解する		○							○				70	50	87.3	1.2	◎
4	二	文章に表れているものの見方や考え方について自分の考えをもつ		○								○	○		55	35	27.2	28.2	●
5	一	心情を表す語句に注意して読む		○							○				75	55	80.0	1.3	◎
5	二	例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容を理解する		○								○			60	40	51.8	17.2	
5	三	文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして読む		○								○			65	45	64.7	2.3	
6	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語・他教科との関連)「憲法」			○						○				75	55	97.1	1.0	◎
6	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「訪ねる」			○						○				75	55	98.1	0.6	◎
6	一3	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「点呼」			○						○				70	50	86.9	4.3	◎
6	一4	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語・同じ音の重なり)「売買」			○						○				70	50	71.3	3.9	◎
6	一5	文脈に即して漢字を正しく読む(熟字訓)「二十日」			○						○				70	50	91.3	2.7	◎
6	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「包装」				○					○				70	50	37.9	21.8	●
6	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「従う」				○					○				75	55	58.6	25.7	
6	二3	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「警報」				○					○				70	50	49.2	18.1	●
6	二4	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「勤める」				○					○				70	50	49.0	11.9	●
6	二5	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「統計」				○					○				70	50	43.5	28.1	●
6	三1	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(文節の関係)					○				○	○			70	50	49.4	2.1	●
6	三2	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(単語の分類)					○				○	○			65	45	69.5	1.6	◎
6	四1	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(類義語・対義語)					○				○	○			75	55	92.0	1.4	◎
6	四2	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(類義語・対義語)					○				○	○			75	55	85.6	1.4	◎
6	五1	歴史的仮名遣いについて理解している					○					○			75	55	58.9	6.2	
6	五2	主語を補って読む					○					○			70	50	90.8	4.2	◎



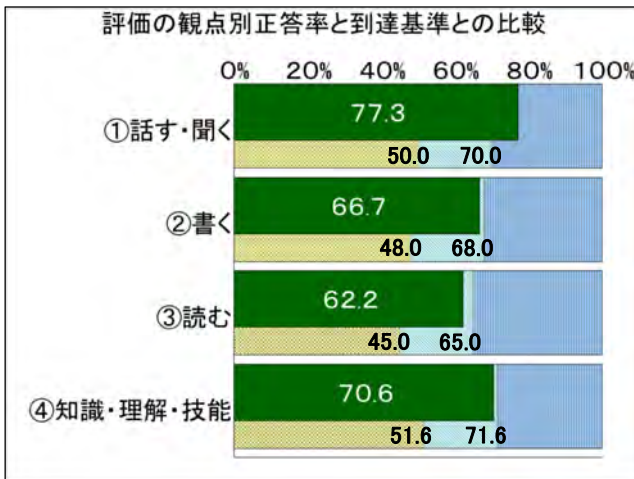
○ 設問ごと正答率



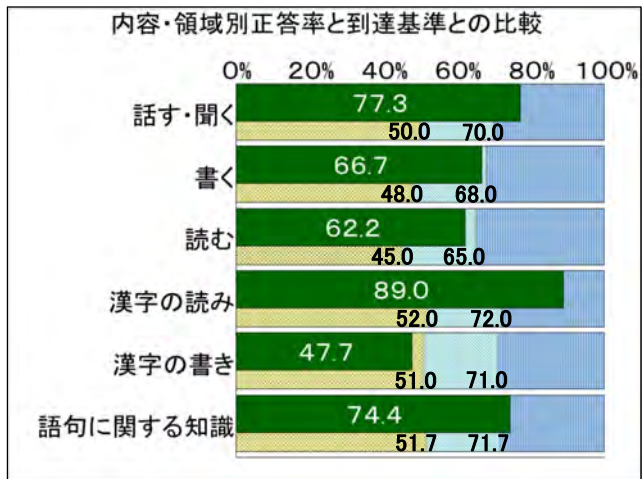
○ 教科正答数度数分布



○ 観点別正答率



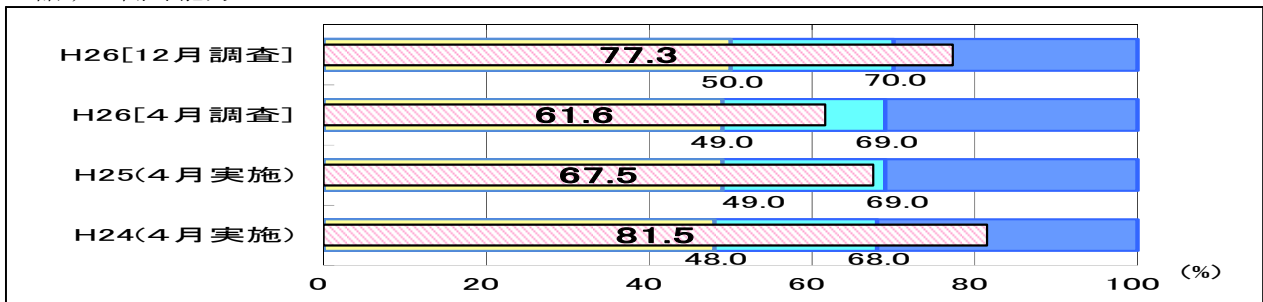
○ 内容・領域別正答率



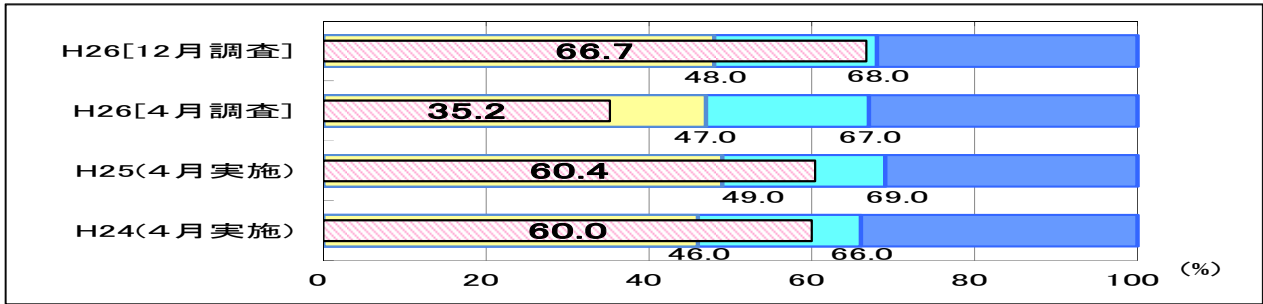
○ 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

※ 平成26年度[4月調査]までは、中学1年生までの内容で調査。

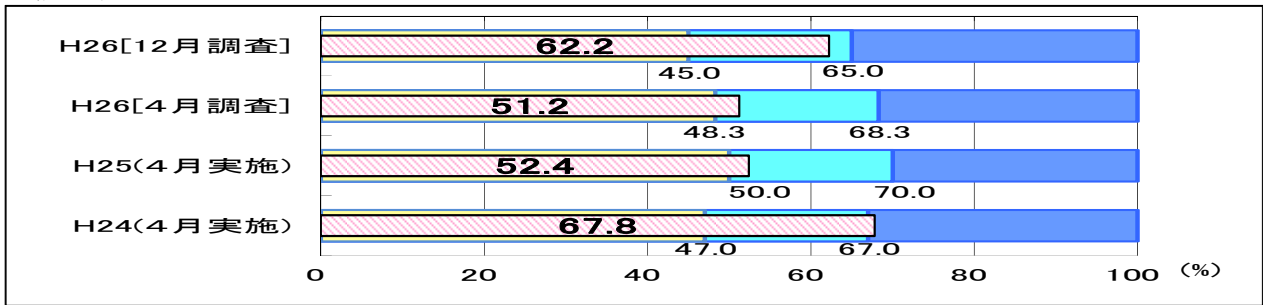
話す・聞く能力



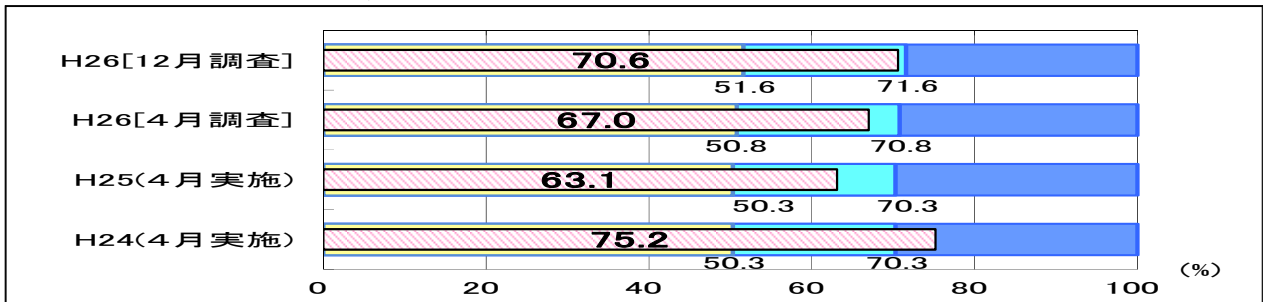
書く能力



読む能力



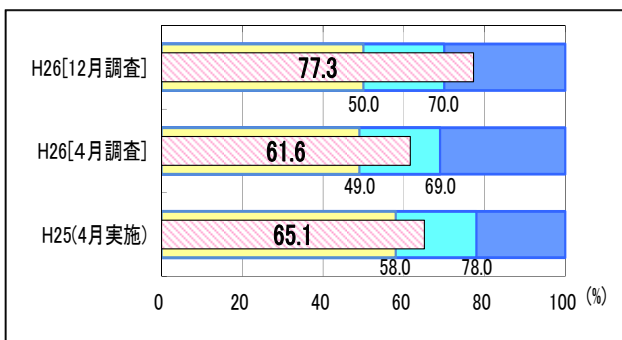
言語についての知識・理解・技能



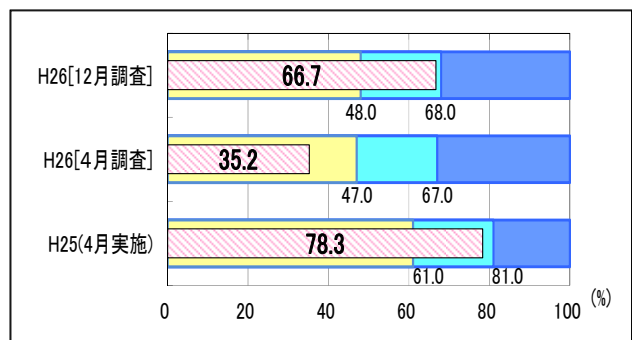
○ 評価の観点別正答率(同一児童)

※ 中学1年生時である平成25年度(4月調査)までは、小学6年生までの内容で調査。

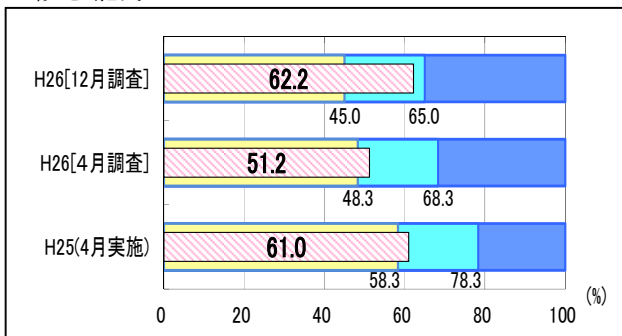
話す・聞く能力



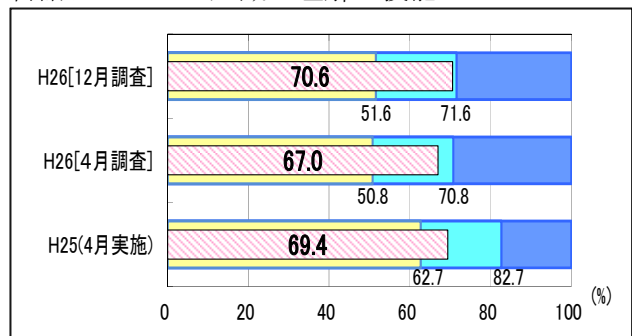
書く能力



読む能力



言語についての知識・理解・技能



(2) 調査結果の分析(成果と課題)

① 中学校全体

- 中学1年生、中学2年生ともに、評価の観点の全てにおいて「おおむね達成」の到達基準を上回っていた。特に、両学年とも「話す・聞く能力」において「十分達成」の到達基準を上回っていた。中学1年生は「言語についての知識・理解・技能」においても「十分達成」の到達基準を上回っていた。
- [4月調査]において課題として挙げられていた「条件に合わせて自分の考えをまとめて書く」問題に関しては、引き続き課題が見られた。

② 中学1年生

- 評価の観点「話す・聞く能力」については、「十分達成」の到達基準を上回っており、「おおむね達成」の到達基準に達していなかった[4月調査]に比べると改善が見られた。評価の観点「言語に関する知識・理解・技能」については、基礎的な知識の定着が見られ、[4月調査]と同じく「十分達成」の到達基準を上回っていた。特に、「漢字の読み」に関する設問は、5問中4問が「十分達成」の期待正答率を15.0ポイント以上上回っていた。
- 内容・領域「書くこと」において、資料と文章を組み合わせて書く指導及び短文を書かせる指導はよく行われているようだが、細部にまで気を配り読んで書くことができていない。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問3二	図と文章を照らし合わせて、分かりやすい文章に書き換える。(短答式)	図の構成に合わせて、文章の段落構成を変える。	38.5	5.3	70.0	50.0

・ 解答状況

解答に際しては、【作業の手順を示した図】の①から④に合わせて、【作業の手順を説明する文章の下書き】の段落構成を3段落から4段落に変更しなければならない。そのためには、図や図の中に示された語句等に着目し、文章を照らし合わせ、段落構成を考える必要がある。全ての情報を的確に捉えず、一部の情報のみで判断したのではないかと推察される。

・ 改善・充実に向けて

複数の資料を関連付けて整理し、段落の役割を考えて文章を構成する学習活動を行うことが大切である。具体的には、次のような指導が効果的である。

- ㊦ 複数の資料を用いた説明や記録の文章を書く学習活動を仕組む。
- ㊧ 資料と文章を照らし合わせ、段落の役割を考えて文章を構成する指導を行う。
- ㊨ 書いた文章が、資料の情報を的確に表現しているかどうかを確かめて推敲させる。

- 内容・領域「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において、[4月調査]と同じく、比喩などの表現技法の正確な理解に課題が見られた。

- ・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問5一	比喩などの表現技法を理解している。 (選択式)	文章中に使われている表現技法の種類を答える。	32.2	1.4	70.0	50.0

- ・ 解答状況

「魔法の食べ物のように」に使われている表現の技法を選択肢の中から選ぶ問題である。比喩表現であるということに気付いた上で、「ように」に着目し、「直(明)喩」であることに気付かなければならない。表現の技法の正確な理解の定着ができていないのではないかと推察される。

- ・ 改善・充実に向けて

比喩などの表現の技法について正確に理解した上で、文章に使われている表現の特徴について自分の考えをもつ学習活動を行うことが大切である。具体的には、次のような指導が効果的である。

- ㊦ 例文を示しながら、比喩などの表現の技法について文脈の中で比喩表現の使い方を理解させる。
- ㊧ 文章の中に使われている表現の特徴に着目し、その表現について自分の考えをもつような学習活動を仕組む。
- ㊨ 比喩などの表現の技法を用いて文章を書かせる学習活動を仕組む。

### ③ 中学2年生

- 評価の観点「話す・聞く能力」については、「十分達成」の到達基準を上回っており、「十分達成」の到達基準に達していなかった[4月調査]に比べると改善が見られた。評価の観点「書く能力」についても、「おおむね達成」の到達基準を18.7ポイント上回っており、「おおむね達成」の到達基準に達していなかった[4月調査]に比べると改善が見られた。特に、[4月調査]において課題として挙げられていた「文章を読み返し、表記や叙述の仕方に留意して、読みやすく分かりやすい文章にする」ことに改善が見られ、文章を書くだけで終わるのではなく、読み返し、表現を工夫する学習活動を行っていることが推察できる。

- 内容・領域「読むこと」については、[4月調査]と同じく、「条件に合わせて自分の考えを書く」ことに課題が見られた。

- ・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問4二	文章に表れているものの見方や考え方について自分の考えをもつ。 (記述式)	「これまでの動物園の展示とは正反対のあり方」にすることで、どんなことが期待できるかを、条件に合わせて書く。	27.2	28.2	55.0	35.0

- ・ 解答状況

解答に際しては、「これまでの動物園の展示とは正反対のあり方」がどのようなものであるかを読み取った上で、1文目には「優位」という言葉を使って、文章中のサルを例に挙げながら筆者の考えに沿って期待できることを、2文目には筆者の考えに対する自分の考えを書かなければならない。要旨を読み取ることができず、筆者の考えに沿って1文目を書くことができなかつたことが無解答率の高さにつながったのではないかと考えられる。また、要旨を捉えることはできても条件に合わせて書くことができなかつたことが「おおむね達成」の期待正答率を下回ったことにつながったのではないかと推察される。

- ・ 改善・充実に向けて

文章に表れているものの見方や考え方を正確に読み取った上で、それに対する自分の考えをもつような学習活動を行うことが大切である。具体的には、次のような指導が効果的である。

- ㊦ キーワードに着目し、文章の要旨を正確に捉える学習を行う。
- ㊧ 文章に表れているものの見方や考え方に対して、自分の考えをもつような学習活動を仕組む。
- ㊨ 条件に合わせて書かせ、書いたことが条件に合っているかどうか確認するようにさせる。

● 内容・領域「漢字の書き」に関する正答率は、5問中4問が「おおむね達成」の期待正答率を下回っており、課題が見られた。

- ・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問6二1	文脈に即して漢字を 正しく書く。 (短答式)	包装	37.9	21.8	70.0	50.0
問6二3		警報	49.2	18.1	70.0	50.0
問6二4		勤める	49.0	11.9	70.0	50.0
問6二5		統計	43.5	28.1	70.0	50.0

- ・ 解答状況

「漢字の書き」の設問に関しては、全て小学校での既習内容であった。無解答率が高いもの(包装、警報、統計)については漢字そのものを覚えていない、無解答率が低いもの(勤める)については細かい部分においての誤りがあったのではないかと推察される。また、「勤める」に関しては、同訓異字の書き分けもできていないのではないかと推察される。

- ・ 改善・充実に向けて

文脈に即して漢字を正しく書く学習活動を行うことが大切である。具体的には、次のような指導が考えられる。

- ㊦ 漢字のもつ意味を踏まえた上で、文脈に即して漢字を書かせる学習活動を行うことが大切である。
- ㊧ 細部にまで意識を払って、繰り返し書いて覚えるようにさせる。

### (3) 改善のポイント

#### ① 文章に表れているものの見方や考え方を読み取らせ、自分の考えを条件に合わせて書かせる学習活動を行う

- ・ 文章を読む際には、文章に表れている書き手のものの見方や考え方に共感すること、疑問をもつこと、批判することなどを通して、新たなものの見方や考え方を発見したり、様々な視点から物事について考えられるようになっていたりするなど、読み手としてのものの見方や考え方を広げていくことが大切である。
- ・ 文章を読んで、感じたことや考えたことを具体的に書く学習活動を取り入れることが有効である。
- ・ 自分の考えを文章に表わすことは、以前に比べできるようになっている。条件に合わせて書かせ、書いたことが条件に合っているかどうか確認するようにさせる。

#### ② 漢字の意味を確認させ、文脈に即して漢字が正しく書けるような指導を行う

- ・ 取り立て指導で、単に漢字の形だけではなく、漢字の筆順や意味、点画について正確に理解させる。
- ・ 細部にまで意識を払って繰り返し書いて覚え、日々の学習を積み重ねることを通して、確実に定着させる。
- ・ 語や語句、語彙指導と一体的に指導を行い、読み書きを確実にできるようにした上で、使いこなす指導をする。
- ・ 漢字を文脈の中で使えるように、「書くこと」や「読むこと」の学習と一体的な学習する場を設定する。
- ・ 語彙を増やすため、書籍や新聞を読むなど、普段から文章に触れる機会を設定する。その中で、意味や使い方が分からない言葉があった時は、積極的に辞書を引くよう指導する。

#### ◎ ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターでは、教育センターWeb ページにおいて、授業に役立つ実践研究として「学習プリント」を提供しています。プリントは、①基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせるための「知識・技能プリント」②学習したことが身に付いたかどうか確かめる「確認プリント」の2種類です。生徒の実態に合わせて、授業で取り扱ったり、家庭での自学自習用の教材として使ったりすることができます。関連の「手引き」（「生徒用手引き」に同じ）も提供しています。中学1年生から中学3年生まで生徒の実態に応じて適宜選択して、いろいろな場面でお使いください。